

■ Vol.1 (2009 年)

- No. 1 ARDS
- No. 2 Sepsis
- No. 3 AKI
- No. 4 不整脈

■ Vol.2 (2010 年)

- No. 1 重症感染症
- No. 2 CRRT
- No. 3 外傷
- No. 4 急性心不全

■ Vol.3 (2011 年)

- No. 1 Infection Control
- No. 2 モニター
- No. 3 栄養療法
- No. 4 急性膵炎

■ Vol.4 (2012 年)

- No. 1 end-of-life

■福島原発事故後、TV や新聞には、その日の各地の放射線量が示されています。心霊スポットならぬホットスポットも話題に。疑問なのは、その日の放射線量、実はその日までの放射線量でなければいけないのではないかと…。で、週刊誌の中刷り広告には、放射能汚染の恐ろしさを強調するものと、ことさらに強調するのは誤りであるとするもの、相反する内容を示すタイトルがあります。被曝そのものは害を及ぼすにしろ、わからなければ、わかりませんということを含めて、いったいどこまで安全なのか、本当のところを知りたいものです。ということで、第11号では、栄養のことがわかります。

■訂正とおわび：第10号の「Oncologic Emergencies (後編)」357ページ左段下から3～4行目に誤りがありました。「フォンダバリヌクスは妊婦の安全性も確立されている」は「フォンダバリヌクスは妊婦の安全性も確立されていない」の誤りでした。ここに訂正するとともにお詫びいたします。

広告一覧 (五十音順)

医学書院……530, 531
 医歯薬出版……474
 エドワーズライフサイエンス……表4
 済生会熊本病院……548
 第一三共……i
 南江堂……400
 羊土社……444

特集：急性膵炎

急性膵炎は、時に遭遇するものの、重症例では死に至ることのある疾患です。しかも、発症早期には軽症でも、その後急激に重篤化し、死に至ることもあります。また、ERCP 膵炎など内視鏡操作に伴う膵炎では、検査が誘因となって発症するため、訴訟となることも少なくありません。急性膵炎に関しては、エビデンスに基づいたガイドラインが作成され、また、厚生労働省研究班からは、初期診療コンセンサスも発刊されています。しかしながら、これらで記載されている内容でも、実際にはその適応や効果に関しては、まだまだ議論のある内容も少なくありません。一方、質の高いエビデンスがなく、明確な推奨が記載されていない予防的抗菌薬の投与期間や経腸栄養の種類、動注カテーテルの留置部位などの実践的な内容やその根拠に関しては、専門家の多数の貴重な経験は臨床家にとって非常に有益な情報です。

本特集では、「エビデンスと経験に基づいた急性膵炎の具体的な診療方針」を提示し、急性膵炎診療の神髄の理解を促し、それぞれの有用性と限界が周知できればと期待します。

- | | | |
|--|---------------------------------|--------|
| 1. ガイドラインの改訂と重症度判定基準について | 名古屋大学医学部 救急部・集中治療医学 | 真弓 俊彦 |
| 【コラム】輸液 | 帝京大学医学部附属病院 肝胆膵外科 | 和田 慶太 |
| 【コラム】鎮痛薬に関する基礎知識 | 秋田赤十字病院 外科 | 古屋 智規 |
| 2-1. 抗菌薬(予防的投与)に関する pro | 京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学教室 | 阪上 順一 |
| 2-2. 抗菌薬(予防的投与)に関する con | 洛和会音羽病院 ICU/CCU、腎臓内科、感染症科、総合診療科 | 大野 博司 |
| 3. SDDとプロバイオティクス | 札幌医科大学 外科学第1講座 | 木村 康利 |
| 4. 急性膵炎における栄養療法 | 近畿大学医学部 肝胆膵外科 | 竹山 宜典 |
| 5-1. 蛋白質分解酵素阻害薬に関する pro | 東北大学大学院医学研究科 消化器病態学分野 | 廣田 衛久 |
| 5-2. 蛋白質分解酵素阻害薬に関する con | 岐阜大学医学部附属病院 高度救命救急センター | 白井 邦博 |
| 6-1. 動注療法に関する pro | 国立病院機構 仙台医療センター 外科 | 武田 和憲 |
| 6-2. 動注療法に関する con | 名古屋第二赤十字病院 総合内科 | 横江 正道 |
| 【コラム】重症急性膵炎に対する膵局所動注療法の実際 | 国立病院機構 仙台医療センター 外科 | 武田 和憲 |
| 7-1. CRRT (non-renal indication) の是非に関する pro | 君津中央病院 救急・集中治療科 | 北村 伸哉 |
| 7-2. CRRT (non-renal indication) の是非に関する con | 東京慈恵会医科大学 麻酔科 集中治療部 | 内野 滋彦 |
| 8. 感染性膵壊死に necrosectomy は必要か? | 三重大学大学院医学系研究科 肝胆膵・移植外科 | 伊佐地 秀司 |
| 【コラム】fine needle aspiration | 秋田赤十字病院 外科 | 古屋 智規 |
| 【コラム】仮性嚢胞 pseudocyst について | 熊本地域医療センター 外科 | 廣田 昌彦 |
| 9. 胆石性膵炎 | 自治医科大学附属さいたま医療センター 麻酔科・集中治療部 | 大沼 哲 |
| 【コラム】ERCP 後膵炎のハイリスク患者に対する膵管ステント留置術の効果 | 東海大学医学部内科学系 消化器内科 | 峯 徹哉 |
| 10. あとがき | | 真弓 俊彦 |

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

Vol. 3 No. 3 2011 年 7 月 1 日発行 (年 4 回 (1,4,7,10 月 1 日) 発行)

ISBN978-4-89592-963-9

INTENSIVIST

1 部定価 (本体 4,600 円+税)
 年々め予約購読料 18,480 円
 (4 冊 税込み・送料弊社負担)

発行者 若松 博

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-28-36

電話：編集部 03-5804-6056 FAX：編集部 03-5804-6054

販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055

URL：http://www.medsj.co.jp E-メール：icc@medsj.co.jp

振替：東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話 03-3622-6161

広告取扱 メディカルブレイン 電話 [東京] 03-3814-5980

日本医学広告社 電話 [東京] 03-5226-2791

福田商店広告部 電話 [大阪] 06-6231-2773

【COPY】<社出版者著作権管理機構 委託出版物>本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつと事前に社出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@copy.or.jp) の許諾を得てください。

・本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込み、送信 (送信可能化権を含む) に関する許諾権は弊社が保有しております。